

平成 30 年度第 1 回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会 結果概要

◆日時 平成 30 年 5 月 23 日（水）19：30～20：50

◆会場 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 4 階大会議室

◆出席委員

伊藤 仁司委員、西山 敦委員、大西 栄委員、齋藤 平委員、三輪 勝也委員、
前田 政吉委員、三村 和也委員、世古 晃文委員、中村 功委員、山北 佳宏委員、
藤岡 信委員、森下 清委員

◆欠席委員

木村 成吾委員、岩崎 良文委員、西村 純一委員、柴原 宏啓委員、畑 金力委員

◆出席職員

情報戦略局長、情報戦略局参事（企画調整課長）、企画調整課課長補佐、同主査 2 名、
健康課副参事、高齢者支援課長、同課副参事、こども課長、病院総務課長、
教育総務課長、学校教育課主幹、社会教育課長、教育研究所指導主事、商工労政課長、
商工労政課副参事、農林水産課長、観光振興課長、観光誘客課長、交通政策課長、
総務部参事（職員課長）、職員課副参事、広報広聴課長、市民交流課副参事、
鳥羽市、度会町、南伊勢町、明和町

◆内容

- 1 伊勢志摩定住自立圏の推進体制について
- 2 伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの第 5 回変更（案）について
- 3 第 2 次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの策定について
- 4 圏域の現状と課題について（懇談）

- 1 各取組の進捗について

【事務局から説明】

伊勢志摩定住自立圏の推進体制について資料 1 及び 2 により確認

- 2 伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの第 5 回変更（案）について

【事務局から説明】

主な変更箇所として、次の 3 点について説明。本日の懇談会の結果を受け、共生ビジョンの変更を行い、各市町、市議会、国及び県へ報告を行う。

(1) 圏域人口の将来展望の追加【資料 3 の P. 16】

国の要綱の改正により、共生ビジョンに「圏域の中長期的な将来人口」を提示することとされたため追記するもの。数値については、各市町で定めている「人口ビジョン」の人口目標と整合を図りながら設定する考えが示されていることから、圏域各市町で作成している「人口ビジョン」を踏まえて記載したもの。

(2) 具体的内容の追加

- ・【資料 3 P. 24】 具体的内容に「提供会員数の拡大」を追加。これは、前回のビジョン懇談会における各取組の進捗状況の報告に係る委員意見を踏まえて追記した。
- ・【資料 3 P. 27】 具体的内容に「三重県主催企業セミナーでの PR」を加えたもので、これは平成 28 年度から実施していたが、三重県主催の企業セミナーに連携市町が参加して PR していることから、改めて内容に加えたもの。
- ・【資料 3 P. 28】 具体的内容に「サケ・セレクション」の開催を追加。これは世界的に有名なワイン品評会「ブリュッセル国際コンクール」の運営団体が日本酒部門「サケ・セレクション」を創設し、10 月に鳥羽市で初の品評会を開くもので、開催地である鳥羽市と伊勢市が当該イベントに補助をしていることから追加したもの。

(3) 平成 29 年度実績額、成果指標及び平成 30 年度事業費の更新

- ・集計ができた内容を記載

【委員の意見・質問】

- ・圏域の将来人口展望に関して、社人研の数値が変更されたことで、共生ビジョンの 7 ページ、8 ページのグラフも変更する必要があるのではないか。今回追加する人口の将来展望と合わなくなるのではないか。

⇒7 ページ、8 ページに記載の内容は現行の共生ビジョンを策定したときに参考とした社人研の平成 25 年 3 月推計による圏域の人口推計を記載しており、それに基づく分析を行っている。追記する将来人口展望についても平成 25 年推計に基づき作成された各市町の人口ビジョンによる数値であるため、7 ページ、8 ページの変更は今回行わないところである。なお、今回追記する人口の将来展望についてはいつの時点の社人研推計によるものか記載するよう検討したい。

また、策定予定の次期共生ビジョンの 7、8 ページのグラフ等は社人研の平成 30 年推計による内容に変更する予定である。

- ・感想であるが、資料 3 P. 19「休日・夜間応急診療所の維持運営」について、連携市町がそれぞれ負担している額を記載した方が分かりやすいのではないか。
また、P. 25「伊勢志摩総合地方卸売市場の経営基盤の確立」について、現況と課題に施設の老朽化のことが記載されているが、修理となった場合、それは行政が負担する内容であるか関心がある。

P. 27「企業立地の推進」について、備考の事業所数の平成 28 年、29 年の数値が把握できるのであれば記載するのが分かりやすい。

P. 30「鳥獣被害防止対策」の各市町で出している猟友会への補助金を記載できないものか。

P. 31「伊勢志摩地域への旅客誘致」について、成果指標である旅客数は実数把握が困難であるため、実数把握できる「宿泊者数」とするのはどうか。

P. 44「図書館サービスの新たなしくみの構築」について、取組の実績に「市外」

とあるが、これは圏域のどの市か分かりにくい記載であると感じる。

以上は、感想であるため、当該課で変更可能であれば、対応いただきたい。

- ・ P. 22 「在宅医療・介護連携の推進」について、平成 29 度の実績額 500 万円の内容は何か

⇒29 年度は医師会に委託し、立ち上げに向け事務所を準備した。その事務所に設置する机や、パソコン等機器にかかる費用である。

3 第 2 次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの策定について

【事務局から説明】

資料 4 により今後の予定及び策定の方針を確認

【委員の意見・質問】

- ・ 次回共生ビジョン懇談会にて示される案に関して、目標値の設定の仕方等について各委員の意見は反映されるのか。

⇒意見をいただき反映できる内容は変更等行うこととしたい。

- ・ 人口の将来展望については、次期共生ビジョンではより現実に近い数値に更新されるのか。

⇒現在の人口ビジョンは平成 25 年の社人研推計により作成しており、それは、人口減少について、このままいくと社人研推計のとおり減少していくところ、各市町の人口減少対策により減少する数を一定の数で止めていこうとする内容となっている。そのため、社人研の推計が更新されても、基本的に人口ビジョンを変更するという事は現在考えていないところである。次期共生ビジョンでは、7、8 ページの社人研による人口推計が更新されるため、策定した人口ビジョンに対して、更新された人口推計がどのようになっているのか比較するような内容と理解いただきたい。

- ・ 人口の将来展望については、次期共生ビジョンでは、8 ページのように生産年齢人口、老年人口等詳細な内容を記載することは可能か。

⇒各市町の人口ビジョンの内容によるため確認することとしたい。

4 圏域の現状と課題について

【懇談】

- ・ 資料 3 P. 19 「休日・夜間応急診療所の維持運営」の取組について、不要不急の受診が依然多いと感じている。事業の概要には「応急診療である旨の周知や受診マナーの啓発等を行う」とあるが、これに対する効果が出ていないと感じる。人口が減少しているのに利用者が増えていることもあり、どの程度効果が出ているかの見解を聞きたい。

⇒休日診療所の利用者を減少することも大事であるが、診療所を維持していくことも大切であると感じている。啓発については実施しているところであるが、効果が出るようにまた考えていきたい。

- ・玉城町は獣害が多く出ているところで、県、町などにより猪の生態について観察する里山ウォーキングを行ったりしている。猪による被害を減らすには餌場をなくす、隠れる場所を少なくすることが効果的であるが、それらの取組は個人ではなかなかできないため、そうしたことに對し行政の補助等があればありがたいところである。より一層の連携により協力をしていただきたい。
- ・地産地消について、伊勢市から見た地産地消、鳥羽市から見た地産地消というように見方が少し狭いと感じるため、伊勢志摩圏域として外から見た場合の地産地消についても一考いただきたい。
- ・人口推移はできるだけ実数に近い内容を示してもらおうと公共交通に活かせるため、年代別等も表示してもらいたい。
- ・若者にとっと魅力ある起業をサポートしていきたい。伊勢志摩地域は年間 800 万人以上が訪れる地域であるので、イベントについても、世界に発信できるよう支援していきたい。
- ・明和町には齋宮歴史博物館等があるので、それを元にして観光を通した活性化を図りたい。
- ・創業について、若い人が創業意欲を持つような事業をしてもらえればと感じる。
- ・個人事業者の廃業が多い。創業セミナーを開いたが参加者は少数である。若い人が定着できるような取組をしていかなければいけないと思う。
- ・交通情報等に係る防災対策の取組について、難しいと思うが今後検討いただきたい。
- ・子どもが少なくなっていると感じる。人口減少について、次期共生ビジョンでは、特に出会い支援の取組を充実していただきたい。企業に働きかけて結婚促進につながるような取組を充実されたい。

以上